

张文碧 主编

# 日本文学作品 选读

 复旦大学出版社

张文碧 主编

# 日本文学作品 选读

 复旦大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本文学作品选读/张文碧主编. —上海:复旦大学出版社, 2015. 12  
ISBN 978-7-309-11896-4

I. 日… II. 张… III. ①日语-语言读物②日本文学-作品综合集 IV. I313.11

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 256031 号

日本文学作品选读

张文碧 主编

责任编辑/黄昌朝

复旦大学出版社有限公司出版发行

上海市国权路 579 号 邮编:200433

网址:fupnet@fudanpress.com <http://www.fudanpress.com>

门市零售:86-21-65642857 团体订购:86-21-65118853

外埠邮购:86-21-65109143

上海浦东北联印刷厂

开本 850 × 1168 1/16 印张 32 字数 598 千

2015 年 12 月第 1 版第 1 次印刷

ISBN 978-7-309-11896-4/I · 954

定价: 58.00 元

---

如有印装质量问题, 请向复旦大学出版社有限公司发行部调换。

版权所有 侵权必究

# 日本文学作品选读

主 编

张文碧

编 者

张文碧      木村泰枝

中村保昭    黄育红

杨本明

审 阅

福井祐介



日本文学历史久远,丰富多彩,风格各异,流派纷呈。作者编写此书的目的是为我国大专院校日语及相关专业的学生及社会上广大日本文学爱好者搭起一座学习、欣赏日本文学的桥梁。希望本书能使读者通过作品的解读与赏析,体会不同时期的作家对同一主题的不同感受,帮助读者认识日本不同时期的社会生活及日本各阶层人群的认知情感,进而激发读者阅读原文及更多的日本文学名作的兴趣,广泛了解日本社会发展过程中一些值得关注的问题。

本书摘录了日本颇具影响力的50位作家的经典作品,分成12个主题,包括富士山与樱花、乡村与都市、家族亲情、成长教养、爱心爱情、自我意识、日常的彼岸、庶民与生活、社会问题、人与战争、旅途心境、人生与友情,以和歌、俳句、能乐、小说、随笔等多样化的文学表现方式,向读者展现日本文学的发展历程及日本社会发展变化的脉络。通过这些既受广大日语读者关心又能反映日本人思维方式、认知世界的象征性主题,使读者在赏析这些最具代表性作品的同时,更好地理解不同时代作家的独特视角和敏锐的感受性,感悟作家的创作意境,在提高日语阅读能力及文学鉴赏能力的同时,领略日本文化的精髓及日本文学的特色。

在本书的编写过程中,作者煞费苦心地围绕同一个主题,选取精华文萃组成一个板块。为了方便读者更好地理解这些作品,本书每一主题分别从作品概要或作品导引、影像与资料介绍、作品及节选、作家简介、赏析指导、理解与思考几个方面,对这些经典的主题作品进行介绍和点评。通过作品概要或作品导读,既能让读者在理解整篇作品内容的基础上深化理解主题,进一步理解节选作品的精彩部分及

---

其特色,同时,又能根据赏析、理解与思考,由点及面、由表及里地指导读者更多地关心该作品的研究方法及作家评论,通过这个平台来吸取值得借鉴的精华。在这些方面,我们不难看出作者做出的难能可贵的努力。

尽管任何新书的特长及局限可能会同时存在,但是,我相信,凡是富有个性的编撰工作,都有可能产生既有独创性又广受读者欢迎的效果。期盼本书不仅能在日语文学专业的教学中发挥应有的作用,而且能成为日语学习者、日本文学爱好者喜爱的读物。

上海外国语大学

谭晶华

2015年7月20日



随着中日文化交流的不断深化,学习日语、了解日本的社会与文化已成为当代中国文化现象的热点之一。愈来愈多的高等院校因时代的需求开设了日语专业,中国的日语教育事业正蓬勃发展。通过阅读经典的文学作品来接触日本社会,感悟日本文化的真谛,已成为广大日语学习者的共同心声。日本文学是我们拓展空间视野、深入了解日本社会的一个重要窗口。它为我们描绘了日本不同时期社会生活的生动画面,其题材、思想和语言能帮助我们认识日本的国民性,以及日本各阶层人群的认知情感,促使我们进一步去了解日本社会发展过程中值得关注的一些问题。

本书从此角度出发,在简单介绍日本上代文学(大和·奈良时代)、中古文学(平安时代)、中世文学(镰仓·室町时代)、近世文学(江户时代)、近代文学(明治·大正·昭和·平成时代)的基本状况后,摘录了在日本颇具影响力的50位作家的经典作品,体裁广泛。其中有在世界上被誉为“小说之祖”的『源氏物語』,有被誉为日本最古老的历史、文学书籍『古事記』,有被誉为“小说之神”志贺直哉的『暗夜行路』,有被誉为民俗学巨匠折口信夫的『死者の書』,还有近代文学巨匠夏目漱石、明治时代文学巨匠森欧外、诺贝尔文学奖获得者川端康成、大江健三郎的代表作。此外,还收录了短篇写作高手梶井基次郎、芥川龙之介、星新一等作家的代表作,以及当代日本被称为夏目漱石之后最有影响力的作家村上春树的代表作等。通过这些既最受广大日语读者关心又能反映日本人思维方式和认知世界的12个有象征性的主题,即『富士山と櫻』(富士山与樱花)、『田舎と都会』(乡村与都市)、『家族』(家

---

族亲情)、『成長』(成长教养)、『爱情』(爱心爱情)、『自我意识』(自我意识)、『日常のむこう側』(日常的彼岸)、『庶民と生活』(庶民与生活)、『社会問題』(社会问题)、『戦争と人々』(人与战争)、『旅心』(旅途心境)、『人生と友情』(人生与友情),以和歌、俳句、能剧、诗、小说、故事、随笔等多样化的文学表现方式,向读者展现日本文学的发展历程及日本社会发展变化的脉络,使读者在赏析这些最具代表性的作品的同时,更好地理解各时代作家独特的视角、敏锐的感性,感悟作家的创作意境,在提高日语阅读能力及文学鉴赏能力的同时,领略日本文化的精髓及日本文学的特色。

为了方便读者深层次地理解这些作品,本书每一主题分别从『作品の概要或は作品導入』(作品概要或作品导引)、『映像紹介』(影像与资料介绍)、『作品内容』(作品及节选)、『作家紹介』(作家简介)、『鑑賞の手引き』(赏析指导)、『理解と思考』(理解与思考)几方面对这些经典作品进行介绍。

〔作品の概要或は作品導入〕 用中文撰写的作品概要或作品导引,让读者在理解整篇作品内容的基础上,进一步理解节选作品的精彩部分及作品的特色。

〔映像紹介〕 为了顺应多元化时代的发展及多媒体教学的需求,本书提供了部分作品的影像信息等,以激发读者阅读整篇作品的兴趣,也能让读者更形象地了解作品的内涵。

〔作品内容〕 除短篇全选以外,根据主题节选了能反映主题思想的作品中最精彩部分,由点及面,让读者领略到日本文学作品长河中的精华。

〔作家紹介〕 简明扼要地介绍了作家在文坛上的地位及影响等,并提供了作家的主要作品,以起到抛砖引玉的作用。

〔鑑賞の手引き〕 围绕作品梗概、创作背景、主题思想、语言风格、作品评价等方面编写的赏析导引,促使读者在关注其作品的研究方法、研究动态的同时,通过这个讨论平台吸收到值得参考借鉴的精华。

〔理解と思考〕 每篇作品后设有理解与思考题,以帮助读者进一步加深理解本主题作品中最重要的部分。

此外,为了方便阅读,本书还对部分难懂的经典作品配上在当代日本具有影响力的翻译者的译文,同时对一些难以理解的词句加上注释。

本书可用作日语专业高年级学生日本文学选读的教材,也能作为日语学习者、日本文学爱好者提高日语阅读能力及日本文学鉴赏能力的基础读物。



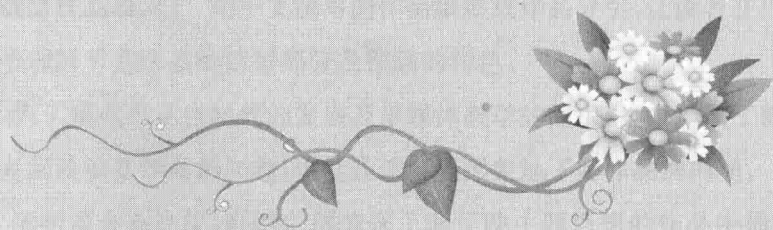


本书的选材、编写参阅了国内外大量的文献资料,在此谨向这些作者表示衷心的感谢和谢意。此书的完成得益于众多良师益友的鼎力相助。在本书的编写、审定过程中,承蒙福井祐介及中村保昭教授的大力支持和帮助。木村泰枝博士参与编写并为此书的编写提供了许多宝贵的资料。上海市语文特级教师杨先国老师在语言文字的勘校方面付出了辛劳,在此表示由衷的感谢。

在浩瀚的日本文学长河中,按主题节选编撰此书对我来说,是一种尝试。因笔者水平有限及时间仓促,拙著定有不少疏漏之处,敬请各位专家同仁及广大读者惠予批评斧正。

作者

2015年7月





## I 部 日本文学概観

- 1 上代の文学(古墳・飛鳥・平安時代まで: 5世紀~8世紀) ..... 2  
口承文学の誕生、記載文学の時代へ
- 2 中古の文学(平安時代: 8~12世紀) ..... 4  
漢詩文の隆盛と衰退、和歌の復興、物語の誕生と展開、説話的収集、日記・随筆
- 3 中世の文学(鎌倉・室町・安土桃山時代: 12~17世紀) ..... 7  
和歌の伝統、連歌の盛行、時代を写す物語、説話の時代、紀行・随筆、歌謡の変遷
- 4 近世の文学(江戸時代: 17~19世紀) ..... 10  
上方文学期、江戸文学期、俳諧の大成、俳諧の再興・大衆化と川柳の誕生、近世小説の誕生と変遷、芸能の発達(浄瑠璃と歌舞伎)、漢学・漢詩文の隆盛、和歌の革新と国学の成立
- 5 近代の文学(明治・大正・昭和の戦前と戦後の時代: 19世紀以降) ..... 13  
小説の流れ、詩歌の流れ、俳句と短歌の流れ

## II 部 名作鑒賞

- 1 富士山と桜 ..... 20
  - 1 『富嶽百景』——太宰治 ..... 21
  - 2 『さくらさくらさくら』——俵万智 ..... 32
  - 3 能の曲目『羽衣』——世阿弥元清 ..... 38
  - 4 『桜の樹の下には』——梶井基次郎 ..... 46

2	田舎と都会 .....	51
1	『マスク』——千刈あがた .....	52
2	『三四郎』——夏目漱石 .....	63
3	『田舎教師』——田山花袋 .....	72
4	『バス停』——丸山健二 .....	82
3	家族 .....	94
1	『同情トイウコト』——大江健三郎 .....	95
2	『暗夜行路』 序詞——志賀直哉 .....	105
3	『おとうと』——幸田文 .....	116
4	『バブーシュカ』——吉本バナナ .....	123
5	『古都』——川端康成 .....	132
4	成長 .....	139
1	『あすなろ物語』——井上靖 .....	140
2	『東京の空の下で』——五木寛之 .....	148
3	『次郎物語』——下村湖人 .....	157
4	『西の魔女が死んだ』——梨木香歩 .....	177
5	愛情 .....	188
1	『潮騒』——三島由紀夫 .....	189
2	『源氏物語』——紫式部 .....	197
3	『ノルウェイの森』——村上春樹 .....	204
4	『風立ちぬ』——堀辰雄 .....	213
5	『たけくらべ』——樋口一葉 .....	220
6	自我意識 .....	230
1	『山月記』——中島敦 .....	231



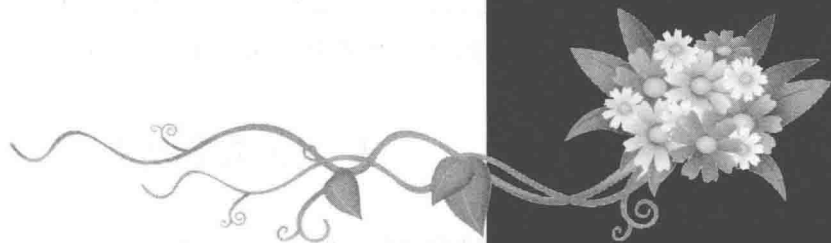
2	『鼻』——芥川龍之介	242
3	『日本人の悲劇』——金子光晴	251
4	『散髪』——椎名誠	255
7	日常のむこう側	262
1	『死者の書』——折口信夫	263
2	『気違い部落周遊紀行』——きだみのる	271
3	『田園の憂鬱』——佐藤春夫	279
4	『古事記』——角川書店編	287
8	庶民と生活	293
1	『楢山節考』——深沢七郎	294
2	『二十四の瞳』——壺井栄	303
3	『勝負事』——菊池寛	312
4	『真知子』——野上弥生子	319
9	社会問題	325
1	『キャラメル工場から』——佐多稲子	326
2	『蟹工船』——小林多喜二	337
3	『厭がらせの年齢』——丹羽文雄	347
4	『おーい でてこーい』——星新一	354
5	『最後の一句』——森鷗外	360
10	戦争と人々	368
1	『友よ』——林京子	369
2	『火垂るの墓』——野坂昭如	377
3	『黒い雨』——井伏鱒二	386

---

11 旅心 .....	394
1 『奥の細道』——松尾芭蕉 .....	395
2 『武蔵野』——国木田独歩 .....	405
3 『放浪記』——林芙美子 .....	414
4 秋のちまた——ふらんす物語——永井荷風 .....	426
12 人生と友情 .....	435
1 『風の又三郎』——宮沢賢治 .....	436
2 『ナイン』——井上ひさし .....	446
3 『友情』——武者小路実篤 .....	457
4 『博士の愛した数式』——小川洋子 .....	466
付録資料：日本文学史年表 .....	474
参考文献 .....	496

I部

# 日本文学概観



# 1

## 上代の文学

### ★ 口承文学の誕生

口承文学の誕生から平安遷都(794)までを、文学史では上代と呼ぶ。この時代、人々の安全や収穫は、自然現象によって大きく左右されたため、そこに現れる超人間的力を神として祭った。美しい言葉で神に祈ればその願いが実現するという言霊<sup>ことだま</sup>信仰もあって、祭りの場で使われる言葉は、格調高く整えられ、表現にも工夫が凝らされた。こうした口承の中から、文学が誕生してきた。

#### 神話の伝承

祭りの場では、身近に起こったさまざまな出来事が、神に関連づけて語られた。共同体の祖先も神であるとして、祖先神の活躍が共同体の起源の物語として語られもした。このような祭りの場における神に関するさまざまな語り伝えが神話である。

#### 歌謡の発生

祭りの場で人々は、神への祈りや感謝を歌い込めた。時には簡素な楽器や舞踏<sup>ぶたう</sup>を伴って繰り返し歌われるうちに、集団の労働や歌垣<sup>うたがき</sup>などの場ではこれらが民謡として歌われるようになり、統一国家形成の過程では、宮廷の儀礼に取り込まれて宮廷歌謡としても伝承された。このようにして定着した歌を総称して、古代歌謡と呼ぶ。

### ★ 記載文学の時代へ

五世紀頃の漢字の伝来は文学を変えた。漢字を表音文字として使う万葉仮名などの表記法が考え出され、神話や歌謡も文字によって書きとどめられるようになってゆく。この過程で流動的な表現は固定され、神話は散文化し、歌謡が定型化してゆく。

#### 神話の体系化

政権の安定と正統化を意図した大和政権は、諸国の氏族を天皇の配下に位置づける形で史書・地誌の編纂を行った。それまで共同体や氏族ごとに語り続けられてきた神話が、八世紀初



期の『古事記』、『日本書記』、地誌の『風土記』などによって、国家の神話として体系化された。『古事記』は、天孫族の神話に出雲族など諸氏族の神話を統合して、大和政権の支配の正統性を強調する一方、英雄的な人物の伝説なども語られ、叙事的世界が文学性豊かに描かれている。『日本書記』は編年体の史書で、六国史のはじめにあたる。その他、氏族独自の伝承の記録として、『高橋氏文』や平安初頭の『古語拾遺』がある。

## 和歌の発達

『古事記』、『日本書記』には約一九〇首の歌謡が収められている。これらを記紀歌謡と呼ぶ。『風土記』や奈良薬師寺の仏足石歌碑にも歌謡の記録がある。これら古代歌謡では、多方面にわたる生活感情がさまざまな歌体で豊かにうたわれている。

統一国家形成の過程で、政治機構が整備され、都市生活を営むようになった人々には、共同体的なものから切り離された個的なものへの自覚が生まれてきた。「うた」は、集団でうたう歌謡から個人の感情を詠む和歌へと性格を変えてゆき、歌集も編まれるようになった。漢字による表記の発達は、表現を洗練させ、他とは違う個的な感情を言葉として定着させることを可能にした。現存する日本最古の歌集は、『万葉集』である。『万葉集』は、先行の歌集を参照しながら、作者の階層や地域も多彩な約4,500首を収める。藤原京の時代には、長歌・短歌などの形式が整い、表現技巧も発達した。この時期には、専門的な歌人も出現し、特に『万葉集』最大の歌人とされる柿本人麻呂はよく知られている。

## 漢詩文の盛行・歌学の誕生

中国を模した律令国家の官人にとって、漢詩文は必須の教養であった。漢詩文は、七世紀後半の頃から創作され、次第に公的な文学とみなされるようになった。漢詩集としては、八世紀中頃の『懐風藻』が現存している。また中国詩学も紹介され、その理論にならって和歌を批評した初の歌学書『歌経標式』も作られた。

## 説話の誕生

六世紀の中頃には仏教が伝来し、布教活動に伴う説教話として説話が生まれた。平安初期の『日本霊異記』に収められたものの多くは、奈良時代の仏教説話である。